

ひろば大代

NO. 179

大代公民館

Ⅱ父の日・母の日特集Ⅱ

「私のお父さん」

大代小六年 下垣紗弥香

お父さんはふだんとってもやさしいです。バトミントンをいっしょにやってくれたり、トランプゲームもやってくれます。

休みの日には、よく買い物に連れて行ってくれます。スキー教室の前日には気に入る物が見つかるまでつきあってくれました。なかなか気に入ったのが見つからないと、ちがう店に連れて行ってくれました。

それに、時々いっしょに釣りに行きます。自分のしかけを付ける前に、私のをやってくれます。釣りの道具もいい物を選んで買ってもらいました。

お父さんは自分の仕事場に、私を連れて行ってくれます。お父さんの仕事場には、お父さんの他に誰もいません。週に何回か事務の人が来るそうです。

私が初めて行った時、すごくきちんと整頓してあってびっくりしました。テーブルには、おかしがたくさん置いてありました。お父さんは、整理がうまいんだなと思いました。

これからも、今まで通りのやさしいお父さんでいてほしいです。

「やさしいおかあさん」

大代小一年 永井亜紀子

おかあさん、おかあさんてやさしいんだね。

べんきょうのときもやさしいんだね。ねるときもやさしいんだね。

やさしいおかあさんがすきだよ。おかあさんおこるけどすきだよ。

「おかあさんありがとう」

大代小一年 高村紗恵子

おかあさんいつもありがとう。

おかあさんいつもたいへんでしょ。いつかてつだえたら、てつだってあげるね。

おかあさんじをおしえてくれてありがとう。

がとう。

おかあさんごはんをつくってくれてありがとう。

おかあさんお風呂にさいごにはいってくれてありがとう。

おかあさんなんでどうぶつのいきものがあんまりすきじゃないの。

おかあさんほんとにかかってあげようかといっけてくれてありがとう。

おかあさんおふろのそうじをしてくれてありがとう。

おかあさんわたしはおかあさんがすきです。

「僕の父母」

大代中二年 原田亮美



僕の父は、左官をしています。いつも汗をかいて帰ってきます。特に夏は屋根瓦をつける時とても暑いと言っていました。Tシャツ一枚でも暑いそうです。それで、タオル一〜二枚持っています。帰ってくる時タオルはぐっしよりぬれています。僕はそのタオルを見て「暑くて大変なんだな」と思いました。

夜には僕が肩たたきをしています。父は僕達のためによく働いてくれます。

僕の母は、縫製工場に勤めています。母は荷物を箱につめたり、その箱を運んだりしているのです。時々手が荒れています。そんな母を見て、痛くて大変だろうなと思いました。

手が荒れているので、水を使うとシミるそうです。僕は茶わんを洗ったりふいたりして手伝っています。つけ物を塩づけにするとものすごくしみるので、僕がほとんどやっています。

母は仕事が終わってから家の仕事もするので大変です。これからも無理のないように仕事をしてほしいです。

「私の両親」

大代中三年 原田陽子

私には有り難い事に健康そのものの父と母がいる。もしも今どちらか片親がいなくなろうものなら、たちまち我家の生活は崩壊してしまうであろう。

勉強に関しては数学以外ならば教えてくれるのだが、私は数学が分からな

きない。

外出に関しては、近年母が免許を取ったおかげで、月一度は江津へ外出をするようになった。肝心の父はといえ、休日は不在で仕事に明け暮れている。しかし、どこかへ連れて行ってはくれなくとも一緒にゲームをしたり、話をするだけでも私は充分だ。時々父の仕事に不満を感じることもあったが今では、それが運命なのだときらめている。

私の友人に傷つくことをグサグサ言う父と、友人を平気でホイホイこき使う母のために、いつかは友人を無くすのではないかと、心配している今日のごろ……。

だがしかし、外見はおいというて中身は最高の親じゃないかと思う。

そりゃあ私は悪ガキなのでよく叱られるけど、お世辞めきでいい親だ。

「私の大切な人」

大代中三年 山下静江

母は私にとって一番大切な人です。母は一人で父の役も母の役もやってく

れます。家での仕事はもちろんのこと私のよき相談相手となって、両親の立場から話をしてくれるなど、それが、私にとってどんなことよりも、うれしいことです。

私は、時々みんながうらやましく思えることがあります。それは、お父さんとけんかをしていることなのです。みんなは、お父さんなんていやだと言っているけれど、けんかをしたり話をしてる様子を見ると、そうとは思えません。

私は、ただ、いいなあと見ているだけですが、でも、そんな時は母が私の父親となつていろいろなことを考えたりしてくるので、さびしい気持ちほどこかに行ってしまう。

父親をやっている母、母親をしている母、どちらとも私にとって大切な大切な人です。そして、私のことを考えてくれる母は、大好きです。

お母さん、いつも迷惑ばかりかかてごめんなさい。これからお仕事がんばってね。

そして、いつまでもすてきなお母さんでいて下さい。

「心で用心、目で用心
火の用心」

大代消防団長 竹本 謙

あなたの力で大代を災害のない町に
火災予防は、家庭、職場を問わず町民
一人ひとりが防火に関心を持ち、徹底
した火気の管理と気持ちを集めてこそ
達成されます。

また方が一の時は、通報や初期消火
あるいは避難行動を的確にできるよう
普段から心掛けましょう。

火災は何も特別な原因で起こる訳で
はありません。「ちょっと」気を許し
た時に発生するのがほとんどです。

火を使いながらその場を離れず、「
心で用心」「目で用心」が大切と思ひ
ますので火の用心に心がけて下さい。

六月に入り、消防活動の基本ともな
る操法訓練大会出場の為、本年度は六
班、七班の合同で練習日を定め、六月
二十六日の大会に向けて訓練を行って
おり、選手を紹介致します。(略敬称)
指揮者 大場清志 一番員 田辺 優
二番員 中垣 太 三番員 原田守男
皆さんのご声援をお願い致します。

「大代の古跡をたずねて」
曹洞宗通寺と墓石群(四日市の巻)

植松 渡 吉正

八月のうら盆会には宗通寺の境内で
昔は盛大な盆踊りが催され、子供の頃
には浴衣がけに下駄履きで夜更けまで
垂れ桜の下を何回も踊り廻ったもので
す。

その頃から境内の五輪塔は大家元広
公の墓であると教わり、誰もが信じて
いました。それは「盆踊りの口説き」
や「大家元広公記」(井田村誌など)
が現存していたから誰も疑いをもちま
せんでした。

二十六年前、私が公民館主事の時に
『大代町誌』編纂を計画し、調査に入
った際、故市原英文さん(上市原)か
ら一つの戒名のお札を見せられ、私は
これをノートに筆記しました。「松風
院殿前尚食奉御慶嚴宗空禪定門」「寛
永二乙丑曆(一六二五)六月十五日」
というのです。「これは元広公の父君
の位牌です。」と言われたように記憶
していますが……。
ところが元広公は宗通寺で割腹自決

して果てたことになっていました。そ
の二十七年後に父君が亡くなられると
いうことは当時常識では考えられませ
んでした。

昭和五十七年秋に大田町在住(前大
家上市出身)の山本清助氏が大代公民
館発行『ふるさと伝説』で「宗通寺
の大五輪塔は大家(今西山)城主藤原
兼公、菰口(三子山)城主公種、新屋
(天神山)城主公房、大家大宮神主公
明の四人兄弟の父君であると県史原簿
の写しより証明されました。

その後、平成二年三月に発行された
『温泉津町誌研究』では島根大学教授
井上寛司先生が「中世石見国大家荘、
大家氏と都市国家」で、宗通寺の開山
は「長江寺(川本、三谷)歴住記」を
引用して「小田対馬守長男万右衛門の
二男南嶺林獄大和尚(川本、三谷長江
寺)だと述べておられます。

つまり、宗通寺を開山したのは南嶺
林獄大和尚で、大五輪塔は藤原兼公(藤原氏が大家郷に来てからその土地の名をとって「大家氏」を称した。)四兄弟の父君の供養塔(建立年代は不詳)だということです。

現在、寺の伽藍（建物）はありませんが墓石群の苔蒸した姿は昔の歴史を無言で語りかけているようです。

宗通寺の創建は桃山時代の天正年間（四百二十一年前）以前だという学説があります。

大代町交通安全協会

からのお知らせ

交通安全協会々長 市原仁郎

去る五月二十六日大田市交安協の平成六年度の通常総会が開催され、優良運転者（十年以上）として下記の各氏が表彰されました。（略敬称）

飯田徹、下吉逸子、竹内節子、畠山千鶴、葛原達雄、横手純子、権原晴美、山根豊澄、今後とも安全運転をお願い致します。

毎年、六月の最終土曜日の夜、開催してありました「交通安全法令特別講習会」は今回の道路交通法の改正に伴い、講師料、受講料がかかることになりましたが、今度の六月県議会で料金等決定することになっており、現在の所開催の日は決まっております。

俳句

あすなる句会

行く春や馳せ来し犬の長き舌

じゃんけんは何時も

孫に負け五月晴

波あやこ

新緑の尾根一直線の飛行雲

緑陰や廃家に偲ぶ庭の石

草衣

二度三度霜に耐えきて水芭蕉

古刹なる闇を破りて時鳥 尾崎三枝子

忘れもの数増す春やそばのれん

通勤の車窓新緑彩あまた 横手いちえ

明けやすき目覚時計を頼りとす

合掌をとかね石佛善茂の影 柿丸寿枝

薫風や朝シャンの髪吹き流し

新堂に法話を聞けば緑風 森 信子

*** 六月行事予定 ***

◆1日（水）福祉委員会

◆3日（金）寿会草刈り奉仕

◆4日（土）町民つなひき大会

◆6日（月）JA地区総代会

◆9日（木）都市交流会理事会

◆12日（日）関西高山会総会

◆12日（日）福祉弁当

◆17日（金）都市交流会代議員会

◆22日（水）連合自治会

おしらせ

赤ちゃんおめでと

ございます。

上市 木村幸司さん

木村悦子さん、吏沙ちゃん

◆大代公民館から

下市 渡 剛様より

茶器他いろいろご寄贈頂き、厚く御礼申し上げます。

◆社協大代支部から

上市 葛原達雄様より

香典返しに替え金一封の御厚志を御寄付頂き、厚く御礼申し上げます。

戦争体験記



「悲慘」

植松 渡 吉正

それは七年前の昭和六十二年七月下旬のこと、私は虫垂炎を患い国立大田病院へ入院し、手術の経過が悪くて仲々退院出来ず、夕食前の一刻を病院の食堂でテレビを観ていた時でした。

向かい側の椅子に腰掛けていた中年過ぎの男性から突然声を掛けられ、「貴男は大家ですか」「大家の渡さんなら渡津さんを知っていますか」「実は私は彼と同じ中隊に居た者でSと言います。「昭和十九年九月十五日に佐世保港から出港した関一六部隊の釜田隊（輸送隊）に属し、南方方面へ行く予定だったが、荒天候で台湾のキールンに上陸して行動を共にした邑智郡〇〇町出身者です。」

「渡津さんは戦病死ということになっていますが、実は上官のいじめによる自殺です。」と言うのです。

私は仰天して「詳しく話して下さい」と詰め寄り、その一部始終の出来事をメモに記したのです。

渡津氏と私は従兄弟半の間柄で、彼

は明治大学の学生で、大家へは春夏秋冬の長期休暇にはよく帰って来ていました。家は藤野屋と言っていました。

居宅は現在の郵便局の場所にあつてそこには横浜から引き揚げて来た父母と妹がいて、お盆には兄妹でよく盆踊りに参加して賞をもらわれた事もありました。

彼はやさしい兄貴で、少し耳が遠かったが、私（大家国民学校の六年生）がひ弱なので特に可愛がってくれていました。

彼は大学三年にして召集令状を受けて本籍地の大家村から学徒出陣したのでした。

そしてたった三カ月にして、無言で桐の箱に入って帰って来たのです。それは大晦日も近い寒くてみぞれが降る暗い夕暮れ時でした。

「英霊」は在郷軍人の手で奉安殿（明治大正、昭和三代の天皇、皇后の御真影（写真）が祀つてある土蔵）前（現在、大正天皇の御手植松の辺り）に安置され、しめやかに追悼式が営まれました。しかし、お国の為に死んだのだから親族は涙を流すことは許されま

せん。このことも私の脳裏に今も鮮明に焼き付いています。

話をS氏の語りに戻します。

「輸送船がキールンに着いたのは十月一日で翌二日の朝上陸、隊編成で四中队に配属され花蓮港への行軍となり、百二十人位が朝霞隊に所屬してキールンから花蓮港まで三日間徒歩での行軍でありました。着いた場所から飛行場と女子校と農学校に分散され、そこを兵舎としました。」

「十月十二日は朝から敵軍の艦砲射撃が始まり、松江市出身の〇〇少尉は疲労の為に死亡しました。」

渡津さんの班長は邑智郡〇〇村出身の軍曹H氏であり、直ぐの上官に益田市出身の〇〇上等兵がいました。

渡津さんは幹部候補生（試験にパスすれば見習い士官になれる）でしたがその時は、まだ入隊して日も浅く陸軍二等兵でした。彼はそういう理由から他の兵士たちより厳しい訓練に明け暮れていた矢先です。

ある演習日のことです。ほふく前進中（はらばいで手足を使つてはい進む）持っていた三八式歩兵銃の飛行射撃

用の部品を失いました。(軍隊では兵器は天皇陛下から授かったもの、という觀念に徹していましたから)

○上等兵からこつ酷く責任を追求され、三日三晩飲まず食わずに部品を探しましたが、広い原野では見つけることが出来ず、遂に花蓮港高校々舎の片隅で銃口を眉間に当てて、足で引き金を引いて自決を果たしました。それは十一月の某日のことです。

遺骨は同年兵が、真宗の寺へ預けて読経をしていただきました。

三日後に軍指令部から「私的制裁はまかりならん」との命令が発せられましたが、後の祭りでした。

「吾々は現地(台湾)で終戦を迎えて昭和二十二年(一九四七)二月に内地へ引き上げることになりました。帰国の輸送船に乗り込み数日経ったある日のこと、旧兵士の十四、五人の者(○上等兵にひどい仕打ちを受けた者ばかり)が、○上等兵を艦板に連れ出し海に投げ込んだのです。」

「アハレトイフモ中々ヲロカナリ」という御文章の一節ではすまされない歴史の現実と、戦時の生きさま死にぞ

まは誠に凄惨で舌筆に尽くし難く、なんとも言い様のない残酷さを感じずには居られません。これが戦争というものでしょうか。

郷里に帰って、遺骨は中渡家の墓地へ埋葬されました。後日、石塔が立てられたように刻字が記されています。(正面) 義誠院釋行善 (右側面) 二代渡勇長男

俗名渡淳事享年二十一歳

(左側面) 大正十三年十月十五日生

昭和十九年九月二十三日明治大学政治経済科卒業同年九月二日応召而直入隊台湾□部隊同年十二月十三日於花蓮港陸軍病院戦病死

後日、親戚や村人達は「台湾は暑い所だけえ、マラリヤ蚊にでもやられんさっただいなあ、ひ弱そうだったけえ」と大家井で、□々にそう言っていました。

戦争とは、いかに悲惨で残酷なことか、私はこの真実を皆さんに伝える機会のを到来を待ち望んで居りました。特に戦争を知らない若い世代の諸君に戦争の凄惨さを知ってもらいたくて記述したのです。

俳句集

「藍色の空」より

大田市(飯谷出身)原田萬里

運かなり山を包みし菜種梅雨
故郷や一枚毎の田植えかな
堆肥撒く農婦も見える煙のほり
薫風に吹かれつ子等は海遊び
町外れ燕返しの見ゆる日々
山並みも町も隠せり梅雨の雨
故郷や風は爽やか山笑う
縁結ぶ便りも楽し五月晴れ
吾娘嫁して今日は荷送り梅雨晴れ間
ふる里の青田を渡る風さやか

